



じしゅうとうこうざん  
時宗 東岡山

# 福田寺だより



ホーム  
ページ



LINE  
公式



イン  
スタ  
グラム

## ほうしん 「報身の仏」



【写経会：3月15日(土)14時～16時受付】  
用具は貸出あり。手ぶらでも大丈夫です。  
【春季彼岸施餓鬼法要；3月22日(土)14時～】

厳しい冬がようやく明けようとしています。また寒の戻りはあるかもしれませんが、暖かい日差しにはホッとしますね。

3月の別名は「弥生」といいますが、語源は「木草弥生月」だそうです。「弥」は「ますます」、「生」は「芽吹き」を意味し、草木が芽吹き、一気に成長する様子を表しています。厳しい世の中、順風満帆とはいかないことが多いものですが、春に芽吹く草木を見ていると、強く冬を乗り越えている姿に励まされる思いです。

さて、仏教においては、厳しい修行を積み、その功德の報いとしてさとりを開かれた仏様を「報身」と呼びます。少し難しくなるので順を追って解説します。

もともと、お釈迦さまはさとりを開かれた超人的な“仏”であるとはいえ、身体を持つ“人間”として信仰されました。しかし、亡くなれるとももちろん身体は消滅しますので、その信仰のあり方も変化します。すなわち、有限である肉体(生身)に対し、肉体が滅した後も残る「お釈迦様の教え(法)」そのものが「法身」と呼ばれ、永遠普遍性をもつものとして意義づけられました。また、お釈迦様の入滅から数百年経つと、仏教の教えの多様性や普遍性から、阿弥陀仏や毘盧遮那仏(東大寺の大仏様)といった多種の仏様が出現します。そこで「法身」「生身」の分け方以外に「三身」と呼ばれる「法身」「報身」「応身」の分け方が生まれました。

法身…仏法・真理そのもの(普遍性はあるが人格性を持たない)

報身…修行の報いとしてさとりを得た仏(普遍性があり、人格性もある)

応身…人々を救うために限定的に現れる仏(人格性はあるが・普遍性はない)

ご覧のとおり、報身という仏様が他二つの特性をあわせ持つ優れた存在だということが分かります。そして私たち時宗、あるいは浄土教で信仰される阿弥陀仏こそが「報身」の仏様なのです。阿弥陀仏は「すべての衆生を等しく往生させる」という誓願を立てられ、修行によりこれを成就し仏様となりました。しかも、報身の仏様が建てられた浄土は「報土」と呼ばれ、本来高位の菩薩以上でないと往生できないとされましたが、阿弥陀仏の浄土「極楽世界」に限っては、「南無阿弥陀仏」とさえ称えれば、私たちのような凡夫でも往生が叶うと説かれたのです。なんとお心の広い仏様でしょうか。

このような仏様は他にありませんから、皆で信仰し、皆で往生することを願わずにはられないのです。 合掌



アカバナマンサク



3月限定御朱印